

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4079600377		
法人名	有限会社 ベストケアカンパニー		
事業所名	いきいきハウス池尻		
所在地	福岡県田川郡川崎町大字345番地15		
自己評価作成日	令和4年2月1日	評価結果確定日	令和4年2月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートウリずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	令和4年2月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然が豊かな山々に囲まれ、四季を感じながら緑豊かな穏やかに時間が経過していく佇まいである。現在コロナ禍の為、活動の場に限りはあるがその中でも地元小学校との交流は10年以上続き、恒例年間行事になっている。職員は事業所の理念、ケア目標を共有し、利用者の方々が「家庭的な環境で楽しく過ごせる」をテーマに日々、実践しており、創作活動や季節行事を通して大きな状態悪化なく経過してきた。今年から新しいリーダーを迎え、新体制で利用者及び家族の方にさらなる安心と信頼を得た事業所作りに取り組んでいきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念の唱和を継続し、職員は代弁者の役割を担いながら、楽しく笑顔でその人らしい生活を送れる様に支援している。入居者の思いが記載された書初めやカードが洗面所前の壁に掲示され、「あんたどこに行ってたんね、心配したんよ」などの職員の労を労う声かけから、日々の対応が伺える。24時間オンコールの看護職員との連携で早期に医療につなげ、詳細な重度化や終末期に向けた方針を入居時に説明し、看取りの意向に応える予定である。コロナ禍の中、長年培った地元小学校との七夕交流を継続し、地元高校生の介護実習の受け入れは、入居者の笑顔や職員の学びの機会になっている。今後はチェックリスト等の活用で記録の効率化を図り、ホームページ作成も予定され、其々の職員が能力を発揮いきいきと就労できる環境の整備や家族や地域への情報発信で、さらなる理念の具現化が期待できるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット/
事業所名 **いきいきハウス池尻**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日理念の唱和を行い周知と共有を図っている。利用者の方々にとっての自分らしい生活に近づける為、チームで支える内容としており、一日の業務の中で実践できるよう取り組んでいる。	理念の唱和を継続し、新規入職者と共に、理念の具現化に取り組んでいる。職員は代弁者の役割を担いながら、楽しく笑顔でその人らしい生活を送れる様に支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事の参加はコロナ禍である為、控えているが、地元小学校との七夕交流会は継続しており、手紙やビデオレターを通じて繋がりを深めている。	運営者や介護課長は、ホームから問い合わせ、今後も長年培った地元小学校との交流を継続したいと話している。地元高校生の介護実習の受け入れは、入居者の笑顔や職員の学びの機会にもなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行政主導の予防教室やサロン活動は現在中止を余儀なくされているため、再開の目的が立ち受託できれば実施したい。介護人材を育成する観点から地元高校の介護実習の受入は継続して行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、運営推進会議の実施は中止。委員からの意見の集約と事業所内の議題を併せて、行政及び関係者へ報告を行っている。	実施している感染症防止対策や委員の食事内容に関する質問等を集約し、定期的な報告をしている。感染状況を見極めながら、4月の開催を予定している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者や地域包括支援センター、福祉事務所との連携により、相互の協力が得られている。	福祉事務所の問い合わせに応じるなど、日頃から担当部署との連携に努めているが、近隣の市町村や地域包括支援センターからの問い合わせも多い。昨年は補助金で高性能空気清浄器を購入している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スピーチロック、ドラッグロックといった内容にも配慮し、身体拘束をしないケアに努めている。また、個人の尊厳を守り、身体拘束ではなく常に代替的な対応が行えるよう、常に検討している。	定期的に身体拘束適正化委員会を開催している。止むを得ない身体拘束やセンサーの利用はなく、大声や不適切な言動には運営者だけでなく職員同士で注意し合っている。ビデオ学習後のレポート提出で、理解を促している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	現在行なっている対応が基本的人権を侵害していないか、身体的・精神的虐待が日頃行なわれていないかを常に念頭に置き、ミーティングや研修を活用して振り返りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、制度を活用している対象者はいないが、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学習する場を持ち、利用者家族やその関係者に対し、説明が出来るよう、パンフレットや資料を準備している。	日常生活自立支援事業や成年後見制度の利用はないが、随時説明するためにパンフレットなどの資料を整備し、内部のビデオ研修で、事業や制度の内容やその違いについて理解を深める予定である。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書及び重要事項説明書を提示し、補足を加えながら、分かり易い説明を心掛けている。説明後に必ず納得、了承を得ており、変更の事項が生じた際には速やかに変更し、再度説明を行なう機会を設けている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所の際や電話を利用し、意見・要望を伺いやすい、環境づくりに努めている。また面会に際しては、状況報告も踏まえ、写真等を見ていただきながら要望や意見を受付できる体制を整えている。	事務室前や廊下の壁に、誕生会や行事の紹介や笑顔満載のスナップを模造紙で掲示し、来所した家族に暮らしぶりを報告し、時には写真を手渡している。是非面会をとの要望には、居間の掃き出しの窓から顔を見てもらったり、電話でこまめに状況を伝えている。	作成予定のホームページで、理念や運営方針、ホーム行事、入居者の暮らしぶりを家族や地域へ発信し、さらなる意見の表出を期待します。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別の相談連絡は代表者、管理者が随時受け付けており、意見や提案を反映できる環境にある。またミーティングや業務報告の内容を精査し、助言を行いながら運営に活かしている。	手のすぐ時間帯を見計らい、定期的にミーティングを行っている。チェックリスト等の活用で記録の効率化やホームページの作成を予定している。運営者や介護課長は職員と個別に面談し、業務だけでなく個々の生活に関する相談を受けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、より良い労働環境の形成が出来る様、管理者や職員から意見を聞き、対話する時間を設けている。勤務条件や抱える問題等、話し合いの機会を持つことにより、職員のモチベーションを大切にしている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	募集や採用に関しては国籍・年齢・性別等の制限はしておらず仕事に対する熱意や意欲がある方であれば無資格・未経験の方でも採用を積極的に行っている。日々、励んでいただける職員を応援し、定年後でも希望がある方は雇用延長を行っている。	夜勤専従を含む、30歳代～60歳代の男女の職員が、ロコミ等で入職し、正規職員が多い。運営者は介護現場ありきを方針として、職員のスキルなどの段階に応じた研修参加を推奨し、ICT活用やイラストなどで個々の能力や特技を發揮できる就労環境の整備に努めている。入居者が楽しいと自分も楽しいし、介護課長の対応を目標にしていると話す職員もある。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権教育や啓発活動は研修等を利用して取り組んでいる。また、業務の中でも侵害されていないか確認を行っていき、プライバシーや言葉遣いについても、日々注意を払っている。	毎朝の理念の唱和で個人の尊厳を謳い、日頃から入居者の病状の共有やトイレ使用時はプライバシーに配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍の為、外部研修にはあまり参加できていないが、内部研修にて教育を実践している。タイミングを見て認知症介護実践者及びリーダー研修等への受講推薦を行い、キャリアアップに繋がりたいと考えている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	関係施設の情報交流はもちろん、他事業所との交流は連絡協議会やMSWを通じて図られている。現在交流会は困難であるが、相互に文書や電話で連絡を取り合う等し関係を保持している。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に生活歴や生きがいに繋がること等、多くの情報を収集をし、入居に向けての環境づくりに努めている。本人及び家族が抱える不安やニーズに対して傾聴しながら、信頼関係の構築に取り組んでいる。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	日頃のコミュニケーションを大切に、気兼ねなく相談や要望が表出できる様、努めている。また、御家族には事業所側の取り組みを理解して戴けるよう、常に情報を発信し、信頼関係を築いている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ファーストコンタクトから面談等を通し、ニーズに適したサービスが提供できるよう、対応に努めている。ニーズが異なる場合は行政や医療機関への協力を仰ぎ、ニーズを考慮した対応も行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者といった関係だけに捉われず、パーソナリティに応じて、「人生の先輩」「共に生活していく者」としての関わり方を考え、関係性を構築している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	写真やメッセージカード等を通じて、可能な限り家族との関係が途絶えないよう最大限の配慮を行っている。情勢を見ながら一緒に大切な時間が過ごせるような取り組みを行う方向である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍により知人や友人等との来訪は困難であるが、家族に協力を要請し、知人や旧友との関係継続が出来るよう支援に努めている。	面会は人数や時間を制限したり、中止したりしているが、職員の支援で全家族に年賀状や暑中見舞いを出している。七夕祭りの交流を継続している小学校には、手作りの貼り絵やメッセージを送っている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の交流の場の提供や活動の場を孤立しないよう、職員が間を取り持っている。トラブル発展を未然に防ぎ、円滑な人間関係が構築出来るよう支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居利用者及びその家族、長期入院が必要になった方に対して、いつでも相談に応じられる旨を伝えている。状況に応じて電話連絡等で関係を保持している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向の表出が難しい方には、潜在している意向を職員と一緒に探しながら、極力、本人本位に検討が出来るよう、努めている。個々の生活歴や人格を尊重した対応に心掛けている。	生活歴や職歴を全職員で共有し、日々の関わりでさらなる思いや意向の把握に努めている。入居者の思いが記載された書初めやカードを洗面所前の壁に掲示し、暮らしの目標としている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしを本人及び家族から情報収集し、困難な場合は日常のケアの中で生活歴を掘り起こせるよう、努めている。本人らしい暮らし方に近づけるよう、心掛けるようにしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の生活の中でどんな些細なことでも変化を見逃さず、自己能力や心身状況について把握に努めている。また、ニーズに直結する場合は対応を都度考えている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人及び家族の思いや意向を聞き取り、各関係者の意見とニーズを照らし合わせながら会議にて共有している。現状として最適な方法を計画に反映できるよう、努めている。	入居者や家族の意向、モニタリング結果を担当者会議で話し合い、現状に即した介護計画を作成している。食事や水分摂取制限で疾患の悪化を防ぎ、散歩したいとの意向を犬の散歩やリハビリ体操参加で支援したり、足が痛いと車椅子を使用している入居者は、下肢筋力の低下が予測され、歩行器使用を検討している。	自室内を歩行できることをストレングスと捉え、歩行器の利用回数を増やすスモールステップの短期目標やケアで、「歩きたい」との目標の実現を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録及び申し送りノートにリアルタイムで些細な情報も見逃さず、記載を行っている。利用中の様子や状態の変化が分かるよう、職員間での共有にて今後の対応や計画の見直しに活かされている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	認知症の症状やリロケーションダメージも含め、最適な方法を検討し、常に柔軟な方法や対応に心掛けている。コロナ禍であるが可能な限り御家族の協力を得て、サービスの多機能化に取り組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	まん延防止措置の観点から地域商店街や子供との交流等はの難しくなってきたが、落ち着いてきたら享乐的イベントへの参加にしていきたいと考えている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	心身の状態に合わせ、入居前からのかかりつけ医への受診を優先している。医療連携や受診支援も柔軟に行っており、緊急時には円滑に対応が出来る体制を構築している。	昨今の状況から、職員が入居前のかかりつけ医や専門医療機関受診を支援している。24時間オンコールの看護職員と連携し、むくみや胃の不快感、血圧上昇などの症状の方を早期に医療につなげている。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携看護職員との双方で利用者の健康管理や身体機能の変化に応じて、協働してケアにあたっている。24時間体制で相談や緊急時の対応指示の連絡が出来る体制を整備している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要になった場合は、主治医、病棟看護師、MSWと必要な情報交換やカンファレンスを行っており、治療方針や経過、事業所側での支援方法等を本人及び家族の意向を踏まえながら早期退院に努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居するにあたり、重度化及び看取りが生じた場合の指針を提示し、説明と同意を載している。看取りが必要になった場合には再度意向を確認した上で、「終の棲家」として各関係者とチームでケアにあたれるよう取り組んでいる。	詳細な重度化や終末期に向けた方針を入居時に説明し、今後は看取りの意向に応える予定である。食道疾患はあったが、食事を普通に摂りレクリエーションにも参加されていた方が、食道の通過状態が2～3日悪化し、入院4日後に急逝された。	高齢期の心身状況の変動を踏まえ、整備された指針に沿った意向確認書を、入居時や随時交わされることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修等を通じて救命の基礎知識やAEDの使用方法を習得している。日常のケアから観察のポイントを押さえ、急変や事故発生時に対する迅速な対応方法の周知徹底を図っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災を想定した訓練(消火、通報、避難訓練)を年2回実施している。コロナ禍の為、消防署立会は困難であったが、地域消防団や関係施設の職員の協力を普段から得ている。	夜間も含め年2回、避難訓練を実施している。法人の多様な介護サービスをローテーション勤務をしている正職員が多く、災害や緊急時の対応が容易となっている。敷地内の法人備蓄庫に3日分の食品や感染防止グッズを備蓄し、台帳を整備している。	令和3年から3年の経過措置で策定を義務付けられた自然災害や新型コロナウイルス感染症発生時における事業継続計画を、法人全体で策定されることを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	あらゆる場面のプライバシーの侵害がないか確認を行いながら配慮にあたっている。利用者の状態によっては攻撃的であったり、興奮した言葉にも冷静に傾聴し、人格を尊重した対応を行っている。	「あんたどこに行ってたんね、心配したんよ」とか、「洗濯物を干しとこうか」など職員を労う声かけから、日々の対応が伺える。介護課長は、日頃から入居者に敬意を持ち、心を開く対応を説諭している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で傾聴し、希望の表出が困難な方でも行動や態度等の些細なサインを見逃さないように、努めている。本人のストレングスを把握しながら自己決定の下、思いや希望が叶うよう、働きかけている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本となる生活リズムを守りつつ、利用者個々の希望に沿えるようペースを尊重し支援を行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るよう、職員と一緒に着る服を選んだり、希望する洋服を準備している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感を取り入れたメニューの演出、嗜好を凝らした食事の提供に心掛けてる。誕生日等には希望の祝い膳等を可能な限り提供している。また、状態に合わせて、後片付け等、職員と一緒に取り組んでいる。	途中から介助が必要な入居者もあるが、手作りの食事を完食される方がほとんどである。おせち料理や鏡開きなどの季節の料理や、誕生日は本人希望の献立や手作りケーキを楽しんでいる。調理当番の折、スマートフォンで調理方法を検索したと、男性職員は笑顔で話している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスの摂れた食事メニューを提供し、状態に応じた支援を行っている。食事や水分摂取量、体重の増減や食事形態の変更等の確認を日々観察し、対応にあっている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず口腔ケアを実施し、本人の状態に合わせてブラッシングを行っている。訪問歯科医の管理指導を受けており、感染症や肺炎予防にも繋げている		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンに合わせ、排泄誘導の声かけや羞恥心に配慮しながら可能な限り、トイレ排泄が行なえるよう、支援している。基本的にオムツを使用しないアプローチを実行している。	夜間、リハビリパンツや尿取りパットを使用している方にも時間毎に声をかけて、トイレに誘導している。睡眠も大切であるが、トイレでの排泄を優先し、尿路感染の防止に努めている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動量や水分摂取量の把握、消化の良い食物や食物繊維を多く含んだものの提供を心掛け、便秘の予防に取り組んでいる。排便困難者に対しては主治医と相談しながら自然排便が出来るよう対応に努めている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者の生活リズムの維持の為、心身の状態に応じて曜日は事業所側で決めて入浴しているが、日時の変更は柔軟に行っており利用者個人のペースで入浴を行っている。	大きめの個浴槽に滑り止めマット、シャワーチェアが設置された浴室は明るく清掃が行き届き、お好みのシャンプーなどを持参する入居者もある。同性介助のほうがには要望に応え、入浴を億劫がる場合は浴室を暖めたり、入浴順番を変えるなどの工夫をしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状態に合わせてながら休息する時間を設けている。夜間に関しては安眠が出来るよう、心地よい照度や音への配慮も行い、リラックスできる環境形成に努めている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をファイリングし効能や薬を服用するに至った経緯、副作用等を職員一人一人が把握できるよう、周知している。変更があった際にはその都度、申し送りを徹底し、服薬前後の体調管理と確認に努めている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の状態に合わせて無理なく行える役割を保持していただいている。職員と一緒に楽しみや気分転換が共有できるよう、努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の関係にて病院受診以外の外出は控えているが、毎日の散歩、園芸の手入れ、飼犬の散歩等を通じて気分転換の確保に努めている。タイミングを見てドライブ等の機会も考えている。	周辺の散歩は日常となり、犬との散歩を楽しみにしている入居者もある。リビングやホームの廊下で、体操や歩行練習をしながら、ひまわりやコスモスで有名な道の駅にドライブできる日を心待ちにしている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御本人が金銭を所持している人はいないが、物品の購入や支払いがある際は、可能な限り本人の手から支払いが出来るよう、支援をしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の協力のもと、手紙や年賀状、暑中見舞い等、やり取りが行えるよう、関係の継続に努めている。(職員の代筆含む)		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下や共有スペースには季節に合わせた装飾や協働で制作した貼り絵等を掲示し、窓からは温もりのある光が差し込む空間である。各々の居場所として空間を演出し、安心感と居心地に配慮している。	玄関には大型空気清浄機エアードックを設置し、定期的に周辺を消毒するなど、感染防止に取り組んでいる。居間は広い掃き出しの窓から差し込む陽光で明るく、ソファや大型テレビ、ソファ、テーブルや椅子が設置され、午前中はラジオ体操、午後は歌謡が流れ、リハビリ体操の場となっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りに慣れる場所は自室のみだが、ディスプレイを保ちながら思い思いに過ごせるよう、配慮を行なっている。利用者同士の時間を大切に、時に職員が間を取り持つなど工夫している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御家族と協力して馴染みのある家具や調度品を持ち込んで載けるようにしている。家族との写真や本人の好む日用品等を居室に配置することで居心地よく感じて載けるよう、支援している。	居室ドアに大きな表札がかかり、テレビやタンス、日用品が持ち込まれたり、職員手作りの誕生日の色紙や、家族に囲まれ笑顔の写真が壁に飾られるなど、居心地よい居室となっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内は、車椅子・歩行器等で安全に自操できるよう広く造られている。廊下には手すりが設置されており、個々の状態に合わせて支援している。		